



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第31号

2011年1月発行・東久留米「九条の会」
代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel. 042-473-9489
<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

日本国憲法9条を守り、活かし 東久留米「九条の会」

尖閣諸島問題と 愛国心

鈴木信太郎

尖閣諸島沖での中国漁船の領海侵犯事件以来、日中関係は冷え込んでいる。その後北朝鮮による砲撃事件が起こり朝鮮半島の緊張が一気に高まった。日米韓のブロックと中朝露のブロックとの軍事的な緊張に多くの人が不安を感じる事態となっている。

こういう状況の中で私は「愛国心」について考えさせられた。中国国民も政府の教育、報道によって「尖閣諸島は中国領土だ」と信じきっている。若者がデモで「日本を懲らしめろ」と叫び、日の丸を焼く映像もテレビで流れた。

私たち日本国民の側も漁船衝突の映像を見て、中国人に対し怒りを感じなかっただろうか。日中両国の国民の感情をうごかすものの根底に「愛国心」があるのでは

ないか。

愛国心と幸徳秋水

「愛国心」とは何か。自分の郷土、文化、家族、同胞に愛情を持つのは自然な心だ。しかし戦前、日本国民に教育等で培われてきたのは徹底的に中国人、朝鮮人を蔑視し、敵視する感情だった。「愛国心」だけで戦争がおこるわけではない。しかし、政府が戦争を始めた、進めるためには、これを支持する国民の意識が必要だ。

このことを詳しく論じた人がいた。明治時代の思想家、幸徳秋水である。彼は著書「帝国主義」で「日本人の愛国心は、征清の役（日清戦争）に至りてその発越憤涌をきわまる（いっぺんに湧き上がった）。彼らが清人を侮蔑し嫉視し憎悪する、言の形容すべきなし、白髪の老人から子どもにいたるまでほとんど清国四億の生霊を殺し滅ぼして後満足せんとするの概ありき」(岩波文庫より一部現代語に訳す)と述べている。

憲法九条を持つ国民の立場

戦後私たちは「日本国憲法」を定め、国民の権利および義務、また政府への戦争禁止を明確に定めた。

憲法前文では「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。…いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」と偏狭な愛国主義を戒めている。憲法前文や九条を政府は事態の対応の基本としなければならない。

尖閣諸島問題では日本領有の歴史的な経過と正当性について中国政府や国際社会に理を尽くして論ずる立場が必要だ。朝鮮問題でも平和憲法を持つ日本政府の平和的イニシアチブの発揮が求められる。

声

武器輸出三原則を堅持したい

管内閣は12月17日、防衛大綱を策定閣議決定しました。今後の10年間の日本の防衛政策の骨格となるもので民主党政権下では初めての大綱策定となります。自衛隊の配備を従来の国内均等でなく、南西諸島方面に重点を置くものとされています。これは、中国の太平洋への進出を防ぐアメリカの戦略の一端をかつがされたもので、日本の防衛とは関係ないものです。

また、今回は実施されませんでした。武器輸出三原則の見直しの動きが浮上してきています。従来、日本は三原則によって武器の輸出はしてきませんでした。これを、「武器の研究・開発面で国際的協力を推進する」、「途上国向けに武器を売却する」ことに途を開こうとするものです。これらは経団連から大綱決定に向けて要望が出されていたものです。軍需産業にとっては武器の開発・製造は予算（税金）を潤沢に与えられ、企業間競争もなく「おいしい」受注となりますが、民主党が経済界の要求を直ちに受け入れたことは自民党時代と何ら変わることはありません。三原則を堅持して憲法九条の精神を世界に示すことが必要です。

（南部九条の会 高橋）

東京9条まつり



11月13日蒲田にある大田産業プラザで、東京9条まつりが開かれました。6階建ての建物に所狭しと、講演、対談、映画、落語、コンサート、合唱、朗読、物産展、展示など30種類ものブースに3000人の参加がありました。場所別同時開催なので、参加できるものは限られていましたが、東久留米からも7人参加し、講演、映画、物産展など一日を有意義に過ごすことができました。

西部九条の会連続講座 「平和のつくり方」最終回

西部九条の会は、「平和のつくりかた」の話し合い講座を約2年間、9回開いてきました。その最終回を12月5日に行い、まとめという意味から「平和探求の動向」をテーマにしました。

戦争のない世界（＝憲法九条）の思想的源流は、18世紀末のフランス革命にさかのぼることができ、その後、苦難の道りではありましたが人々は「戦争のない世界」をめざして闘ってきました。

戦争の根源となる「他の人々を抑圧し、その利益を横取りする」最大のものである植民地支配を人々は第2次世界大戦後に取り除きました。そして、植民地で抑圧されていた人々が、世界を平和に導く主体的な役割を演じ、平和を願う人々と一緒に今日の「核兵器や戦争のない世界をめざす」大きな流れを築いてきました。私たちも「平和をめざす大河の一滴」となっていることなどを話し合い、連続講座を終了しました。この間の参加者は、延べ230人となりました。

（大野）

南部九条の会

アニメーション映画

「白旗の少女 琉子」 上映会

監督 出崎哲氏（市内在住）の
話もあります

主催 東久留米・南部九条の会
後援 東久留米市

東久留米九条の会

2月5日（土）

午後2時（1時半開場）

生涯学習センター

5歳以上高校生まで

300円

一般

700円

*上映中 保育あり

*チケットは生涯学習センター
内バオバブ、市民プラザ、各地
域センター、喫茶アコルデ、ロ
アンでも販売しています。

詳しくは 475・3290

（南部九条の会・高橋）まで

★ ものがたり

一九四五年四月一日、沖縄本島に
アメリカ軍が上陸してきました。

美しかった島は砲弾の炎につつまれ、家は焼かれ、

人びとは南部に避難をはじめました。

お母さんと妹の千代と一緒に南に向かう琉子

砲弾に倒れる琉子の母と妹

生きる気力を失って放心し、放浪する琉子

鉄血金皇隊の少年 孝多との出会い

ますますはげしくなるアメリカ軍の攻撃

一九四五年六月二五日、運命の日

投稿をよひかけるアメリカ軍のスピーカーが壕（ガマ）に響く

「玉砕」を決める日本軍司令部、住民への「自決」の強要

白旗をわしづかみに外に飛び出す孝多

幸多をねらい撃ちする銃

そして琉子は……



《平和を考える本》

『カラス笛を吹いた日』

長い間、戦争に行つて不在だった父親に、娘はまだ少し不馴れな様子。でも今日は、畑を荒らすカラスを退治しに、ふたりで凍てついた丘に上る。娘はカラス笛を吹く。カラスは続々と集まってくる。笛を吹く娘を友達だと思つていられるらしい。

父は娘に、言葉少なに戦争を語る。ハンターという言葉に怯える娘に、父は銃でカラスを撃たないままに丘をおりる。娘にそつと手を握られながら……。

声高な主張はないが、落ちついた色彩の絵に、しつとりと美しい日本語訳がマッチして、豊かで奥深い一冊となっている。



文／ロイス・ローリー
絵／バグラム・イバトウーリン
訳／島式子 島玲子（BL出版）

9条・青年 インタビュー 第2回



菊地彩芽 26歳

市 内の株式会社ライフケ
リエイト東久留米薬
局で薬剤師として働いてい
ます。今年8月に職場の
すすめで原水爆禁止世界大
会に参加しました。「人々の
安全が守られることが、医
療従事者として大切なこと」
とすすめられました。職場
では3〜4年前にも参加し
ていたようです。入社した

人は、一度は行くようにす
すめられます。別の職場で
すが、同期入社の人でも今年
参加したようです。

4 月に入所してから「活
憲」をテーマにした講
演を聞きました。日本の憲
法9条は、めずらしい。世
界では石碑にしている国が
あるくらいだということを知
りました。それまでは、
学校で習ったきりでした。
特に9条を意識したことは
なかったです。すでに平和
が当たり前でしたから。

な ぜ9条をかえたいの
か? 「平和のため」に
なにかをすることと9条の
考えの線引きが難しい。原
水爆禁止世界大会では、隣
人と平和について話しをす
ることが大切と言われたが、
それは日常生活の中では難

しい。友人にヒロシマに行っ
た話をしたが、伝わったか
どうかわからない。空回り
しているかんじでした。

友 人は、後ろ向きで「そ
れで何がかわるの?」
と言われてしまった。知っ
て意識していくことが大事
だと思う。知っていること(9
条を変えようという) 宣伝
を聞いても本当にそうかな
と思うことができると思
います。

— 60代以上の人は、若い
人にどう9条を伝えていく
か考えています。

学 校側の教育を通して伝
えていくことが大事だ
と思う。上から下の世代に
伝わっていないと感ず
家庭の中でも話できれば

いいのでは?

私 は小さい頃にジサマと
バサマが近くに住んで
いたが、あまり話す機会が
なかった。聞こうとする
話してくれただが・・・今
の時代は、モラルやマナー
の問題でも家庭の中で話
できていません。親の世
代に9条や核兵器廃絶の情
報を伝えることが大事では
ないか。

(聞き手 村山順次郎)

2010年12月25日市内で

*ご意見ご感想をお寄せください

